

農経新聞

株式会社 農経新聞社
 東京都品川区西五反田 1-27-6 市原ビル9F
 (郵便番号 141-0031)
 電話 東京 (03)3491-0360
 F A X (03)3491-0526
 ホームページ <http://www.nokei.jp>
 郵便振替 00180-8-156982

実需者と種苗メーカー結べ

関東農政局 加工・業務用テーマに情報交換
 青果育種研

関東農政局と青果育種研究会(会長▽宮本修・東京青果専務)は、埼玉県で「関東地域における加工・業務用野菜に関する情報交換会」を開催し、流通業者や生産者など170人が参加した。農水省、産地、外食の関係者がそれぞれ講演し、種苗メーカー14社が推奨品種を紹介。加工・業務

用では、輸入農産物への対抗として周年の安定供給が望まれる。こうした中、低温期や品薄時期の安定栽培・供給に向けた品種や耐病性に優れた品種、さらには差別化品種など約50品種が一堂に会した。関東農政局では、実需者と種苗メーカーとのマッチングイベントの実施は今回が初めてとなる。

低温伸長性に優れた品種として、武蔵野種苗園(東京都豊島区)はニラ「ハイパークリーンベルト」を紹介。秋・春の低温期のニラは葉肉が薄く色が淡くなりがちだが、同品種は葉肉が厚く緑色が濃くなるうえ、分けつが少ないため太いニラとなる。カネコ種苗(前

橋市)のレタス「トリガー」も低温伸長性に優れた品種で、厳冬期でもしくしく中心の収穫が期待できる。凍害に強く、数回の降霜にも耐えられるという。一方、タキイ種苗(京都市下京区)では、関東地域で品薄時の4月に供給できる寒玉キャベツ品種として中晩生の「彩音(あやね)」、晩生の「夢(ゆめ)」に加え、トマト黄化葉巻病のイスラエル系・マイルド系に耐病性を持つトマト2品種を紹介した。

このほか、とぎわい農場(埼玉県吉見町)では皮が淡緑色の「うぐいすキュウリ」、イボなしのミニキュウリ「ブチット」を出展。八江農芸(長崎県諫早市)では、葉や柄がやわらかく鍋物や炒め物などさまざまな調理法に向く葉ニンニク



(上) 奥が薄緑色の「うぐいすキュウリ」、手前がミニのイボなしキュウリ「ブチット」(左)低温伸長性があり、味・香りも良いニラ「ハイパークリーンベルト」



山工場(静岡県富士宮市)でカットや漬物などに加工し、全国の店舗に供給している。とぎわいキャベツは国内でも有数の使用量という。調達面で「一番気になるのは安定的であること。できればキャベツは貯蔵物を使用しないようにしたい」とした。契約産地や市場などから仕入れており、「市場調達が安心できると評価。」



供までの取組みについて紹介。同社で扱う野菜は2005年に開設した「富士」

170人が参加し、賑わいを見せた情報交換会。手前のカネコ種苗のブースではレタス「トリガー」をはじめ、ミニトマト「イエローミニ」、ダイコン「YR案ざくら」などを紹介

一方、毎年5%のペースで店舗数が増加する中、毎年5%多く調達しなくてはならない。安定調達のため新たな取引先を増やしていきたい。(担い手不足などが問題となる中)これからは産地の強化育成に努めないと話した。